

高校生記者（白石高）

佐賀・宮城の「白石」交流

離れていても、思い通じる

私は2020年夏「日本の次世代リーダー養成塾」に参加し、全国の高校生と交流する機会を得ました。名簿に同じ名前の高校を見つけ、交流を深めたのが宮城県白石高校の3年生でした。この「ご縁」がきっかけで、本校の記念すべき第1回白高祭文化祭では、両校の生徒が出演した動画を作り「白石コラボ」が実現しました。初の試みでしたが、無事成功を収めました。

さらに親交を深めようとしていた矢先の2月、福島県沖の地震が発生しました。心配になり連絡を取ると、校舎にひびが入る被害があったとのことでした。

「私たちにできることはないか」と思い、校内で募金活動を行いました。3日間の短い期間でしたが、3万円余の募金が集まり、手紙を添え、全額を宮城県白石高校に寄付しました。3月11日には、募金に協力してくれた全校生徒に放送で募金のお礼を述べ、東日本大震災について言及し、黙とうを呼び掛けました。東日本大震災発生から今年で10年が経ちます。この節目の年に、復興支援にかかわることができてよかったと思います。同時に、東日本大震災があったという事実を風化させてはならないと強く感じました。



二つの「白石高校」をつないだ募金。白石町の白石高校

宮城県白石高校と交流を通して、遠く離れていても、人とはつながり、心で通じ合うことができる実感しました。募金活動では、被害状況が明確に分からないなか、多くの生徒が募金に協力してくれました。思いやりの心をもって、互いに支え合う。それが自然にできる仲間が身近にいることをうれしく思いました。

これからも両校が良い関係を維持し続けていくことを願っています。

【白石高校3年 見陣詩乃（みじん・しの）】

